

北広島市長期総合計画審議会 第7回 環境・福祉部会 議事録

\*\*\*\*\*

■日 時 平成21年11月27日(金) 18:30~20:20

■会 場 芸術文化ホール 活動室

■出席委員

長井敏行部会長、内手進委員、大川壽雄委員、川島光行委員、斎藤洸委員、  
榎武弘委員、森永正造委員

■欠席委員

三瓶徹職務代理、大谷恵一委員、根岸敏子委員

■事務局

前野康弘総合計画課主査

■傍聴 なし

\*\*\*\*\*

1. 開 会

2. 報 告

【部会長】まず、事務局から、前回の経過と、今日の論議のポイントについてお話しいただきたい。

【事務局】最初に、前回部会の際に質問等があった事項ではっきりと回答できなかった部分があるので、その説明をしたい。

まず、公園管理の関係だが、制度名は「公園等住民管理制度」と記載しているが、現在は「公園等里親制度」に変わっているので変更したい。団体への支援については原則ボランティアという話をしたが、公園の面積や活動内容に応じて、謝金という形で一定の金額を支払っている。

次に、防災マップや避難所一覧を見たことがないとの指摘があったが、平成14年に全戸に防災ガイドブックを配布したのが最後ということで、実際に住民周知が徹底されていない状況であった。現在は千歳川の洪水ハザードマップ、北広島市の避難所マップがホームページにアップされているとのことである。

自主防災組織に対する支援については、一部助成金の交付をしている。例えば、避難訓練や防災教室、地域防災マップ作成などを行う際には、団体の規模により上限があるが、経費の2分の1を補助する制度がある。

次に、消防のサイレンの活用などの指摘があったが、消防のサイレンは火災時に用いることが原則だとのこと。消防法でサイレンの用途が決まっているとのこと。

次に、交通安全教育に関する状況については、4月から7月にかけて市内小学校全校

で交通安全教室を開催している。新入生限定ではなく、学年別などで行っており、歩行訓練、横断歩道の渡り方、自転車の交通ルール、ダミー人形による衝突実験などを実施している。また、幼稚園、保育園、中学校、一部の高校でも開催しているほか、老人クラブなどでも展開しており、一年を通していろいろな形で交通安全教室が行われている。

以上が、前回十分にお答えできなかった事項への回答となる。

そのほか、前回の議論で変更になった箇所について、修正を行った資料を配付している。また、今回配布した資料では、施策の説明部分を9月4日に配布した資料に準拠して具体的に記述しており、わかりやすくなっていると思う。

### 3. 議 事

**【部会長】** 前回の議論では第3章の第7節まで議論したので、残った第8節、消費生活の安定から議論を行いたい。

以前の部会でサイモンズカードを利用した財源確保について提起があり、事務局でも資料を用意してくれているが、これについてどう反映させるべきか、もしくは反映できないのかということについて、意見をお聞きしたいと思う。

サイモンズカードというのはなかなかよくできたカードだと思うが、まずはみんなに仕組みについて簡単に説明してもらえないか。

**【事務局】** 委員から提起があり、資料にまとめさせていただいた。日経スペシャル「ガイアの夜明け」というTV番組でも取り上げていることを含め整理している。

11月から北海道鷹栖町で実行しているようである。ただ、現状ではふるさと納税に絡めて、市外に出られた地元出身者などにサポーターズカードという形で送付をして、ポイントカードとして使っていただく形式のようである。まだ全町的に発行するという機運ではなく限定的なものだということで、他市町村からの問い合わせもあるようだが、まだ大きな取り組みにはなっていないようである。

最終的にどの章・節に絡むことかを考えると、第6章の財源確保に関する具体的手法として記載することなどが考えられる。ポイント制度が一元管理されれば非常に大きな効果を生む可能性が高いと思うが、それぞれの企業がポイント失効とならないよう努力している面もあり、実際に財政収入としてどのくらいの規模になるかは不確定である。あくまで、一助として活用は考えられるとは思うが、いずれにせよ、消費というよりは、財源に関する部分での記載を検討するほうが合っていると思う。

入れ込むにしても、推進計画の具体的な施策という形だろうし、即導入とはならないが、財源確保は必要なので、その一つの手法として行革を含め報告をしておきたい。

**【委員】** 高齢化が進み、納税者も少なくなってくると思う。そこで問題になるのはやはり歳入である。今は、北広島市は道内でもかなり健全な財政状況だというのが、長期計画を

実行していく上で、「使われなかったポイント」を地元に戻元してもらおうというこのような取り組みは、財源確保の一つの方策として担当部門で検討してほしい。

**【事務局】** この取り組みがふるさと納税と結びついたものだというのは知らなかったの  
で、調べてみていろいろな発見があった。

**【委員】** ふるさと納税は、北広島市では今どのぐらいなのか。

**【事務局】** 200万弱だと思う。本年はなかなか集まっておらず、継続するということが難  
しいことがうかがえる。

当市では返礼はしていないが自治体によっては名産品などを送付して、呼び掛けている  
ところもあるようだ。

**【部会長】** それでは、基本計画の第1章と第3章については一通り議論を終えたというこ  
とにしたい。

**【事務局】** これでコンクリートではない。一区切りとするが、原案が出た中で、引き続き  
修正を加えていくことは可能である。

**【部会長】** それでは重点プランのほうに入らせていただきたい。まず事務局から簡単に説  
明をいただきたい。

**【事務局】** メリハリという話が出ていたと思うが、今後10年間の中で、総合計画として重  
点的に取り上げて推進していくべきもの、または他分野等含めて複合的に取り組むこと  
で相乗的な効果を得られるようなものなど、例示としていくつかのテーマを挙げていた  
だきたいと考えている。

重点プロジェクトは、本来、全体会議での審議事項だが、専門分野の中で重点化すべ  
きだと考えるものがあればそれを挙げて、最終的に全体会議で5つ、6つ程度の重点プ  
ロジェクトを立てられれば、と考えている。

この部会は、特に環境、福祉という分野だが、この分野の詳細を肥大化するというよ  
りは、他の分野も含め複合的に進めると効果がありそうな取り組みなどを挙げてもら  
い、部会として示してもらいたいと思う。単独の部会で決められるものではないが、環  
境・福祉部会としてはこういう意見があったと、部会長から全体会議で報告いただくこ  
とを想定している。

**【部会長】** 了解した。事例として事務局から案が三つ出ている。

**【委員】** 私の認識が混同しているのかもしれないが、重点プロジェクトを立てる場合、そ

の位置づけは、目指す都市像の下に来るのか。

**【事務局】**今の構成であれば、基本計画の各章の前に来ることになると思う。基本構想はあくまでめざすビジョンであり、そのために何をするかは基本計画に位置付けられる。各章、各節で取り組むことを包括するのが重点プロジェクトなので、基本計画の柱という位置付けになるだろう。

**【委員】**市民が見たときに、三つの目指す都市像と混同しないだろうか。

**【部会長】**重点プロジェクトはツリー構造で見れば、目指す都市像の下にあるという感じになるだろう。

「自然と創造の調和した豊かな都市」のテーマの下に「目指す都市像」があり、その下にいろいろな基本計画があるが、それを横断して重点的に進めるものだろう。

重点ということは重要だと捉えていることになるが、これは必ず実現を図るものと考えていいか。

**【事務局】**決して他をおろそかにしてもということはないが、まちの考え方として特化していく部分であるとの認識を持っている。

**【部会長】**そうであれば、それだけ具体的なプロジェクトであることが求められるのではないか。子育て支援の充実を重点として掲げても、センター、児童保育所、児童会館などを整備するなど、具体的なものとして出てこないと、プロジェクトの意味があまりない。

**【委員】**市民説明会を各地区で開催しても出席はどこも悪かったが、少ない人数とはいえ、市民のニーズがどこにあるかわかったと思う。まずは、市民の求めているものがあり、それが我々がつくったものと乖離していたのでは意味がないのではないかと思う。

**【事務局】**これまでの議論としては、「子育て」と「教育」の連携、「にぎわい創出」と「まちの魅力発掘」など観光・交流人口増加の関係、それから「住みやすさ」や「人と人のつながり」などが挙がっていたので、それを盛り込んでいる。

また、人口増加策をどうするか、といった提起が大きかったように思うが、その一つの要素としてまちの魅力や住みやすさなどがあるのだろうと考えている。住みやすさというのは、緑の多さなどだけでは計れないものだろう。

**【委員】**あるデータでは、住民が住みたいというまちの像の一番は、「安心・安全」のまちだという。将来ずっと住みたい、住みたいというまち「安心・安全」のまちの1位は伊達市だったそうだ。そういう像が実現されれば、効果として出てくる、地価も上

がっていく。

盛んに「安心・安全のまちづくり」が謳われているが、結局そういうまちが一番住みやすいということで、それは日本全国どこでも一緒だと思う。

こういう住民の求めるものをプロジェクトとしてやっていかないといけない。これだけの経費をかけ、こんなに多くの方が集まってつくるものなのだから、的を得たようなものにしないといけない。「安心・安全」というものを少し具体的に砕いていき、形作っていったらどうか。

**【委員】** 重点プロジェクトの意義がはっきり認識できていない。他の部会との連携をしながら進めている中で、そこでの整合性はどこで取るのか。ここで話しても意味はないとは言わないが、他の部会と違った話になってしまえば、いくら議論しても仕方がないのではないか。

せっかく各部会が分野に分かれて一生懸命考えているのに、これをまたまとめてプロジェクトをつくるとなると、非常に複雑になって、せっかく討論した部分がまた蒸し返されてしまう。無駄ではないか。

**【事務局】** 例えば、地域の福祉ネットワークを構築することを考えた場合、この章立て・節立てでは、いろいろな部分にネットワークという言葉が出てくる。それらはあくまで章ごと・節ごとに実施されることになる。

そういった個別に散らばる「地域ネットワーク」に関連する各章・節の項目を一括りにして、連携させて取り組んでいくことを表に出していかないと、いつまでたっても各論の議論ばかりになってしまうので、横断的な考え方をしたいというのが基本である。

**【委員】** この部会は、環境や安全の問題から考えればいいだろう。そうすればバッティングすることもない。

**【事務局】** ただ、例えば子育てを考えても、子育て支援だけに限らず、学校教育や健全育成などの分野が関わってくる。そういうものも取り込んだ形で複合的に子育て支援を考えれば、より効果があるだろう。乳幼児だけでなく、そこからある程度の年齢になったときのこと、さらには学校に進んだときのことなど、一連で取り組むことによって、子どもが健全に成長していくためのより発展的な取り組みとなる。

他の部会の分野に踏み込むのは全然かまわないし、逆に言えば「これをするためには、産業の部分でこういう取り組みをしないと効果は出ない」ということがあれば、そういったこともポイントとして取り込んで、一緒に考えていくべきではないか、といった意見を挙げてほしい。

**【委員】** 6章45節に分かれたこれらの項目を、全部入れるのは無理だろうが、それではこの中で何を重点プロジェクトとして挙げるか、というのもなかなか難しいのではない

か。

**【委員】** 重点プロジェクトは部会で取り上げるには向かないとは思ふ。部会にあまりこだわらなければ、今後10年間で何を指すべきなのかという考えはあると思う。ただ、ここでの議論と、他の部会の議論が食い違うのも問題がある。

今、北広島団地の活性化検討委員会の委員もしているが、そこでの議論の内容と、この総合計画の目指す考え方とは、正直ギャップがある。総合計画の大きな柱は、基本的には人口増加だと考えている。日本全体が人口減少に向かう中、この総合計画では、交通の便などに恵まれている環境下にあるということで、人口を増やすことが骨格になっていると思う。

団地地区についての考え方についても、北広島駅周辺の活性化や北広島団地の人口増加策など、本当にできるのか疑問にも思うが、もっと若者を増やして活気のあるまちにしていくのだというのがこの計画の柱になっているのではないか。

これを前提とすると、重点プロジェクトの方向性は自ずから定まるのではないかと思う。他都市にはない北広島市独特の環境によって人口を増やしていくための取り組みを考えていくことになるだろう。具体的な部分を決めるには、この部会でというのは難しいと思うが。

人口増加の件は、団地の活性化委員会の議論ではそういった方向にはなっておらず、私は総合計画との整合性を持たせていかないとまずいのではないかと指摘しているが、なかなかそういった考えにはなっていない。

**【事務局】** 私の説明が足りなかったが、本来的に重点プロジェクトは、各部会がつくっていくものではなく、全体で検討すべき問題である。ただ、全体会議の中で一度に議論するのも難しいので、部会でいろいろと意見をもらっておきたいというのが事務局の意図である。

各部会ではこういう意見があったということ、一つの検討材料として、全体会議の議論につなげていきたいと考えている。

委員から指摘があったように「安全・安心」もテーマにできるし、委員が言われたように「人口増加」をテーマとして、そのために「安全・安心」、「子育て支援重視」を入れ込んでいくという考え方もあるだろう。どういう形で重点プロジェクトを組んでいくのが北広島にとっていいのか、というところを意見としてもらえればと思う。

その意見は、集約して事務局で整理をしたい。

**【委員】** 都市像も、明らかに人口増加を前提にしている。人口増加がないと希望が持てない、成長都市にならない。これが本当にできるのかが問題で、その確認は委員会全体が必要だと思う。

若い人が入ってこないとバランスがとれない。なので、計画の根幹は、若年層の移入だと考えている。そのためにどうすべきかを重点を絞っていろいろ検討すべきだと思う。

う。

**【委員】** 虹ヶ丘では最初は土地が売れず、人が入ってこなかったが、今から4、5年前に「安心・安全」に町内会が取り組み、シルバーPTAをつくったりしているうちに、犯罪が大きく減った。そうしたら、この2年間で、全ての土地が売れた。当初は200戸しかなかったのが、2、3年で700戸になった。主な住民は若い人で、安心・安全だけでなく利便性も影響している。

いくら誘致をしても、自分のニーズに合わなかったら人は住まない。「終のすみか」と決める要因は何であるかを探っていかなければいけない。たしかに、人が集まらないことには、何をしようとしてもできない。

**【部会長】** 人口増、安全・安心、医療の問題などがテーマとして考えられるとしても、別問題として、重点プロジェクトを立てるための基本的な考え方を固める必要がある。何を重点プロジェクトのバックボーンにするかということを経験してはどうか。

**【委員】** あまり意味がないのではないかと。時代の潮流などバックボーンはすべて基本構想に整理されている。人口増加や安心・安全、医療・福祉の話も、計画として記載されている。ここまで整理してあって、さらに重点プロジェクトを立てるとするのは、どこに意味があるのか。

人口を上げないと活性化にならないし、税金も入らないし、支え合うこともできないという共通理解は既にある。答えはある程度出来上がっているだろう。そして、それが計画の中には全部書いてある。

この上で、重点プロジェクトを何にするかという議論は、みんなが住みよくて、安全で便利なまちづくりのために何でもやりましょうという話になって、何が重点プロジェクトかわからなくなるのではないかと。

**【部会長】** なので、重点プロジェクトは、具体性がなければだめだと考えている。既に書いてあることを言い直しても意味がない。プロジェクトという以上は、具体的にやることを定める。

計画の中には、重点プロジェクトとは関係なくやるべきことが整理されているが、その中でも「これは絶対やりきる」という具体的な施策が重点プロジェクトだと理解している。

**【委員】** そうすると、計画を出した市長の責任が大きくなる。そんな大事なものをこの場で決められるか。議会も通らず、財源の見通しもなく。財源があって、とにかくやれというならわかるが、重点プロジェクトとして掲げても、議会や市長で「財源がないのだからできない」となったなら、具体的なことは一つも書けないだろう。

具体的なことを「やる」と言ってしまうと、これは政治生命に関わる話になる。それ

はここで議論をしても意味がないのではないか。無駄な時間をかける必要はない。

それぞれ重点的に取り組んでほしい施策はあると思う。現実的に考えなくてもよければ、「土地はやるから住んでくれ」だとか、「安全を守るために警察を増やせ」だとか、「教育水準をあげるために少人数制にしよ、先生は増やせ」だとか。

市民説明会でもいろいろと意見が上がっているが、役場に直接行くか、地域の市議員が取り上げて議会で話すべき内容が数多くある。こういった意見を全部やろうなどという長期計画ではない。「重点プロジェクト」という意味が自分にはなかなか理解できない。

**【委員】** 基本計画を推進するために、3年スパンで実施していく実施計画をつくることになっている。重点プロジェクトという名称で項目立てした場合、計画の中の一項目をそのままピックアップしたのでは位置づけとしては弱い。

本当に10年先を見据えて、重点的に取り組むことを決意してやるのだったら意味合いがあるが、ただ優先して進めることを位置づけるだけでは、実効性は薄いのではないか。

**【部会長】** 具体的な方向づけを示さないと「プロジェクト」にならない。プロジェクトというのは目的・目標が明確化されていなければいけない。そこに向けてどう遂行するかを計画的に実施するのがプロジェクトである。

具体的に何年度までに何をやって、どういう成果を得るのかまで示さないと、重点プロジェクトとは言えないと思う。

**【委員】** 部会に関連する分野に言及すると言っても、福祉にしても環境にしても、広く深い分野である。実践することを考えると、行政や関係機関が本当にそれをやり切れるのかというところが非常に重要である。

**【委員】** 市民説明会でも、現計画の評価、総括はどうか、総合計画と他の計画との整合性はどうか、ということが質問として挙がっている。

**【部会長】** 現計画の評価、総括についてはどのように説明していたか。

**【事務局】** 既に配布している昨年度報告書の中で、今後の課題をピックアップして、それに基づいて現在の素案を組んでいる。

ただ、総括は数値評価などにまだなっていないために、評価の結果が見えづらいという部分は確かにある。今回の計画からは数値目標、指標を盛り込み、具体的な目標を掲げて評価できるようにしたいと考えている。

**【部会長】** そうであれば、重点プロジェクトの中で、そういう評価、総括を行うというこ



とを謳っていくことも考えられる。それは非常に重要なことだと思う。

**【事務局】** そういう意見もたくさんいただきたい。全てを取り込めるかはわからないが、まずは意見を挙げてもらいたい。行政は「漏れなくやっていく」ことが基本姿勢。しかし、市民を代表して来られている委員の皆さんが、今後10年間で優先的に取り組んでもらわないと困るというようなことを指摘してもらいたいと考えており、その指摘を事務局が素材として整理して、重点プロジェクトの叩き台にしたい。

もしそういう指摘がなければ、「この素案のとおりまんべんなく淡々とやっていけばいい」という理解になってしまう。

**【委員】** 重点プロジェクトを設定しようと言い出したのは誰なのだろうか。委員長の方があるのか。

**【事務局】** そういうことではない。それぞれの項目はもちろん重要だが、医療や福祉などは市民ニーズとしては高いこともあり、通常の項目以上の重点化をすべきだという意見が出ている。例えば、人口増加のための施策は既にこの中にいろいろと散りばめられているが、それを集約して「プロジェクト」という見せ方をしたいということである。

現行計画では「プラン」という表現をしており、他市町村では「リーディングプラン」といった表現をされるケースが多くみられる。表現として「プロジェクト」が適切かどうかはともかく、施策の優先順位を市民の目線で考える必要があるという意見は、市民説明会でもあったし、それ以前からも出ていることなので、検討してもらいたいという趣旨で考えている。

絶対に設定しなければならないというものでもないし、なくていいという結論であれば、それはそれでいいのだが、計画全体のメリハリを考えると必要ではないかと思っている。

**【委員】** 気持ちはわかるが、新しい計画をつくるにあたり、生活と人の命を守ることをきっちりと重点プロジェクトで達成すべきで、高い達成率が求められる。

これまでの計画遂行率をみると、大体30%ぐらいではないか。しかし、重点プロジェクトでは打率3割では許されないという意気込みでかからないと命も守れない、生活もズタズタになる。

そう考えた場合、本当に柱になるもの、一致団結して絶対に実行するのだということを経営6章を通して考えるのは至難の業だと思う。

**【委員】** 重点プロジェクトは、今までの総合計画の中にもあったのか。

**【事務局】** 現計画でいけば重点プランという形を出している。細かい話をすれば、掲げられたものは、財政当局も含めて優先的に予算化するなどの対応が行われる。

**【委員】** 今回、事務局が3つの例示をしているが、これは事務局としてこの三つぐらいにまとめたかどうかという案なのか。

**【事務局】** 示したものはそういう意図は全然ない。あくまで見せ方の例示として掲示したものである。全く考えなしでつくっているわけではないが、これを叩き台にして議論してもらってもいいし、まったく別な視点で「定住人口増加プロジェクト」といったことを検討してもらってもいい。

**【委員】** 重点プロジェクトについて考えてきてほしいと前回言われたので、これまで何も発言をしていないこともあり、少しは考えなければと思って私なりに考えてきた。私は「地域福祉ネットワークの構築」を重点プロジェクトとしたらどうかと考えた。

環境・福祉部会からの提案として考えており、事務局の例示だと例3に近いが、人同士が支え合うネットワーク、地域での共助の仕組みづくりといったものに当たると思う。

私の考えてきた「地域福祉ネットワークの構築」よりも、この例示のような幅広いプロジェクトとして考えた方がいいとは思いますが、このような住みよさ・地域づくりプロジェクトの内容のようなことを軸に盛り込むべきものを部会として挙げていけば、一つのまとまりになっていくのではないかと思う。

言葉としては「重点プロジェクト」よりも「総合プロジェクト」といったまとまったものとしてプロジェクトにしてた方がいいと感じている。

**【部会長】** 安心・安全ということも、例3のプロジェクトに入ってくる。人口増の問題も、人同士の支え合い、地域での共助の仕組みづくりをしっかりと実施すれば人口増になるとも考えられる。もちろん産業・都市部会に関する部分にもあるが、いろいろなところに散りばめられている。

こういった多様な施策を、人口増や安心・安全の観点から整理していくことも考えていいと思う。

**【委員】** 整理が難しい。行政としては、このままの羅列の方が各部、課ごとに実行できてやりやすいだろう。それを総合的にまとめた場合に、果たして本当にやり切れるだろうか、実効性の高い体制をつくれるだろうか。個人的な経験では、プロジェクトをつくるということは「絶対必達」のチームをつくるということ。項目を絞り込んで、完全に達成することを求める。

今の議論のように捉えると、何かテーマのようなものになってしまうのではないか心配になる。

**【部会長】** 「プロジェクト」という表題には合わない。プロジェクトは到達する目標があ

り、具体的な手段があって初めてプロジェクトになる。そして、必ず成果を出さなければいけない。

**【事務局】**「プロジェクト」という言葉にこだわっているわけではない。表現によっていろいろ制限がかかるということであれば、例えば「プラン」などに変更するのは構わない。ただ、「ここには力を入れていただきたい」、「これに力を入れていくべきだ」というものが、この6章の中でもあると思う。

まちとして、力を入れて取り組んでいる部分を示すことは必要だと思う。それを行政サイドでつくってしまえば、確実なところ、批判を受けないように整理してしまうが、こういう市民参加の公の場で論議してもらうことで、なんとか努力してでもやっていかなければいけないことが挙がるのだと思う。

後で評価したときに、そうやって掲げながらできなかったことが次の計画の新たなテーマにもなっていくと思う。

目標としては100を掲げて努力するが、100にならなくても目指すものとして100を掲げて、それを中間で評価をし、都度、到達していない点、今後力を入れていくべき点を組み立てていくといったやり方が進行管理として適していると思う。

市民の方が評価する上でも、力点は示しておいたほうがいいのではないかと考えている。事務局としては、いろいろな意見を総合して「そういうものがあつた方がいいのではないか」と考えているが、不要ということであればなくてもいい。

**【部会長】**「プロジェクト」という表現にはこだわっていないということで、目標として掲げていくものとしたい、とのことだが、ある程度具体的な達成点がないとわかりにくいと思う。どのような評価になるのか、想定はしているのか。

**【委員】**今、現行計画の重点プランを見ているが、全部達成されているわけではないと思う。ほぼ10年間取り組んで、まだ継続中のものも結構ある。未達成のものは、10年経って打ち切るわけではなく、継続していかなければいけないだろう。

文章表現を調整して、できていないものはもっと推進していくような形にしていけばいいのではないか。新たにつくり変えてしまうと、現在のプランが未達成に終わってしまい、意味がなくなってしまうと思う。

**【委員】**確かに、こういう計画は一度つくったら継続していくことが重要だろう。まだ達成されていないものがあるという印象はあるので、これをもう少し具体的にしていけばいいのではないか。

**【委員】**ここでいうプロジェクトは、ビジョンに近いものなのだろう。輪郭がはっきりしない。

**【事務局】**最近、リーディングプランという表現もある。牽引役のポイントになる政策

として示すのが一般的である。そうしないと目指している姿が市民に伝わらない。内容は従前のプランの延長であっても構わないと思うが、こういったポイントに対する市民ニーズは高いように思える。

そういった中で、現計画の重点テーマに特に加えるものとしては、人口増加という部分だろう。それを実現するためには施策を組み立てていく必要があるか意見をいただきながら、新たなテーマとして掲げていくということになるものと考えている。

10年経過すれば、当初とは状況が変わるものである。例えば、「協働」なども、そのあり方は、10年前と今とはかなり違っている。

**【委員】** 人口増というのは、重点プロジェクトの言葉としてはどうだろうか。

**【委員】** プロジェクトを立てる場合に、魅力的な言葉だとは思いますが、そのために何が必要かを住民が真剣に考えられるかどうかだと思う。私有地で遊休している土地を提供する、あるいは宅地造成公社をつくって市街地周辺にもっと広げるなど、ここまで北広島市の人口が急増して、そして止まってしまった原因を分析することで、何となくその解決策が見えてきそうな気がする。

**【委員】** 北海道リハビリが大きな土地を持っていて、それを市の活性化に役立てたいといった話があがっているなど、真剣にこのまちの発展を願っている人、企業はいる。

10年前に立てた計画を踏襲するとしても、その中でも考え方が変わった部分は時代に合わせて変えていかないとならない。

**【委員】** 新たな総合計画が、10年前につくった現行の総合計画の延長線上に位置づけられている感じを受ける。それであれば、前の総合計画で重点プランを定めているので、それを一旦しっかりとレビューし直して、今後の10年に向けて手直しすべき点があるかどうか、あるならばどう手直しをすべきか、といった視点に立って検討を進めたらどうか。現行計画が完遂されていないなかで、新たな視点に立ってつくるというのはどうか。

**【部会長】** まず必要なことは10年前につくられた現行計画の重点プランの評価、総括をしてもらい、それを踏まえて新たな重点プロジェクトを考えていくのがいいだろう。現行の評価をして、達成されている部分は落とし、その分は新たな取り組みを加えていくというやり方でどうだろうか。

**【委員】** 重点プランは一つの規範であり、規範の中には変えてはいけない規範と変えなければならない規範というのがある。

**【部会長】** このようなやり方でもすべての委員の意見を十分に反映できているわけではな

く、やはり全て計画に書いてあることだろうという批判への回答にはならないが、そこは我慢してもらい、市民の目にわかりやすい形でアピールするために重点プロジェクトを掲げることとしたい。

ただ、評価、総括については、本当に重要な要素であるので、それ自体を重点プロジェクトにすることが必要だと思う。それを明記しておけば、今後も評価、改善がうまく回転していくのではないかと思う。

**【委員】** 3年ごとの実施期間の評価がポイントだろう。次の3年はどうすべきかという議論が重要。

**【事務局】** そこが最も困っている部分の一つで、政策評価は既に行っており、外部評価を取り入れて事務事業評価を進めているが、個々の事業の具体的評価を行うことはできても、計画としての大きな枠での評価につなげにくい。個々の事業の善し悪しはできるが、その善し悪しが全体の評価、例えば具体的な教育施策の評価はできても、全体としてその事業の成果が教育全体にどの程度効果があったかを評価することができない。

「この事業は効果がないからやめました。お金が浮きました。」という事業仕分けは簡単なのだが、それが教育全体にどのように意味のあることなのか、あるいはその浮いたお金で教育の推進のために何ができるのか、という部分を詰めることができなければ意味がない。このあたりが、評価制度を導入して現在行き詰まっているところである。

このような状況から抜け出して、推進計画、基本計画の中に「評価」を取り込んで、少なくとも各章、各節、各施策単位での評価ができるようにしたいとは考えている。ただ、一方でそれがかなり難しいことだという認識も持っている。

**【委員】** 私が関わってきた仕事の中では、予算と施策の評価をする場合には、それぞれを付け合わせて見ることになる。両方を見て、企画に基づいた予算をつける。

そうなってくると、遅くても上半期、下半期の単位で事業評価をやることになるので、そこでチェックできるのではないかと思う。

**【事務局】** 事業に対する予算は、具体的な個々の事業にいくら、という形で細かく振り分けられるので、結局目線がそこにしか行かない。そのため、各事業の進捗や予算に応じた成果の評価はできるのだが、計画で求められるような総括的な評価にはならない。

この事業は、あくまで一つの章や節を構成する1エッセンスであり、その章や節の進捗、到達率を図る指標が今はないのが問題。何を目標としていくのかが求められている。

例えば、「死亡者におけるがんの死亡率の低下を目指す」ということを大きな柱とすれば、「現状65%を50%に低減する」といった目標を立て、それを達成するためにガン診断事業などによる早期発見を進めるといった形での計画でないと、総括の評価は難しい。現行では「胃がん検診事業を行う」といった計画で、「胃がん検診をたくさんやっ

た」が評価になってしまっているが、それでは本当の評価にはなっていない。

そういった本当の評価が、今度の計画策定の課題となっているのは確かだが、今、ここでこの10年間を振り返って、現行の計画の重点プランを一つずつ洗い出すということになると、今からでは新たな計画策定に間に合わない。

**【委員】** 未来総研で、昨年の報告書を作成していると思うが、章・節ごとの評価に振り分けることは難しいだろうか。

**【未来総研】** 基本的には市担当各課で評価をしたものを当所で整理しているのだが、評価の内容が、達成率ではなく実施の有無にとどまっているものも結構多い。正直なところ評価になっていないというのが実態としてあり、そこをどうするかが今の計画策定にあたっての課題だという認識でいる。

**【委員】** アウトソーシングを受けた側として、そのレベルでもいいから振り分けるとこういう評価になる、というのは出せるのか。

**【未来総研】** 個々の事業の中で数値的に押さえられるものももちろんあるので、それらを束ねて章・節の「評価」にすることはできるが、それは分野の中のごく一部なので、その評価をもって分野全体の評価というのは、やや無理があるだろうというのが正直なところ。

昨年度、評価を行っている際に「これでは評価になっていない」という指摘は市担当にしているが、明確な指標がない今の状態ではなかなか難しいという話になった。

今回の計画の中で、「適切な評価ができない」ということにならないように、ある程度章ごと、節ごとに指標立てをして、評価する方法を考えていくことになると思う。

**【委員】** 重点プロジェクトに関しては、概ね共通の理解にはなっていると思うので、部会長と事務局で実務的な整理をしてもらい、その叩きをベースに再度議論した方がいいだろう。

**【事務局】** 従前のものと大きく変わらない部分と、「安全・安心」や「人口増加」という括りの部分を新たな形で取り込んでいくか検討してみたい。

地域福祉ネットワークについては、事例3をベースに、現行計画でもふれあいなどの形で入っているので、プラスアルファとして踏み込んでいくことを考えてみたい。

**【部会長】** 「プロジェクト」、「ビジョン」、「プラン」など、市民の目線で見るときに、どの言葉がしっくりくるかも考える必要がある。「プロジェクト」、「ビジョン」は結構言葉としては強いと思う。「プロジェクト」であれば、本当に達成が絶対条件になると思う。そのような意見が出たということで事務局で検討してもらいたい。

**【事務局】** 了解した。他部会でも議論を進めているので、部会単位での議論でプロジェクトの内容が固まることはない。あくまで検討のヒントとして、ある程度テーマを絞り込んでいくための議論と考えている。

他の部会の経過をみながら、それぞれの部会の意見を集約した上で考えてみて、部会長には事前に素案の素案程度で相談をし、それがあつ程度固まつた段階で皆さんに見ていただき再度議論をしたいと思う。

**【委員】** この部会だけではなく、他の部会でどんな議論がされているのかが気になる。他の部会の状況も含めてうまくまとめていただき、次回の全体会議に出せるような案をつくつていただければと思う。

**【事務局】** 行政としては、何を重点的に進めていくかを決めておかないと、施策の優先順位がつけにくいというのが正直なところ。すべての施策を濃淡なく進めるというのではなく、強く押していく領域、無理をしない領域を整理していかなければならない。そのためには、ヒントとしてこういう場での議論がほしいというのが本音ではある。

限られた予算内でいろいろな事業を進めていく必要があるため、ある程度は力点を決めて一点集中で物事に当たつた方がいい時代になってきていると感じる。今後は特にそういう傾向が強くなると感じているので、皆さんの協力をお願いしたい。

**【部会長】** それでは、現計画の重点プランを基本に事務局で考えてもらい、確認したのちに皆さんへお見せすることにして、本日は閉会としたい。

## 6. 閉 会